

塚田英晴（保安全管理）、平健介（寄生虫）、加瀬ちひろ（動物行動）

## 研究の背景

片平浩孝（環境生物）

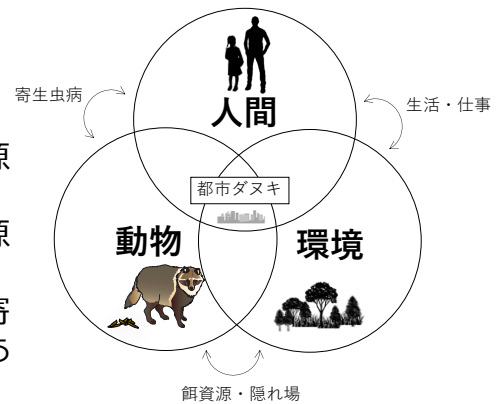
21世紀は都市の時代とも言われています。国連によると、2007年には世界の人口の半数以上が都市に暮らし、2050年には7割以上の人口が都市に暮らすようになるそうです。都市は人間が優占する環境ですが、意外に多様な野生動物も生活し、特有の都市生態系を構成しています。

こうした野生動物とヒトとは生活空間を共有するため、互いの接触機会が多くなります。野生動物と触れ合うことは楽しいことですが、野生動物からヒトへ病気が伝染する危険性もあります。都市住民である私達自身の健康を守るためにも、同じ場所で暮らす野生動物の健康状態やその生息環境の健全性などへの配慮が必要です。それが、ヒト・動物・環境の三者の健康を一緒に考えるワンヘルスという考え方です。

本プロジェクトでは、都市で我々の身近な隣人となりつつある都市ダヌキに注目し、その食性を通じてダヌキ自身の健康状態や生息環境の健全性、さらには、ヒトへ寄生虫病が感染する危険性をモニタリングし、ワンヘルスを実現するのにどのような取り組みができるかを考えていきます。

## アプローチ

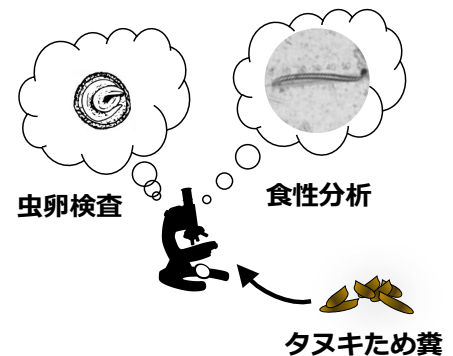
1. タヌキの糞分析～タヌキがどれくらいヒト由来の餌資源に依存した生活を送っているのかを探ります。
2. タヌキの餌動物の資源調査～タヌキの餌となる自然資源が都市環境下でどれくらい利用可能なのかを探ります。
3. タヌキの寄生虫相調査（虫卵検査）～タヌキがどんな寄生虫に感染し、ヒトに対して何を感染させる危険性があるのかを探ります。



ワンヘルスの概念図

## 期待される結果

1. 都市ダヌキが何を食べているかがわかります。
2. 都市ダヌキに重要な餌資源の状況がわかります。
3. 都市ダヌキの寄生虫感染状況とヒトへの感染リスクがわかります。
4. 都市ダヌキからみた都市でのワンヘルスの実現に役立ちます。



## 現状とこれから

1. 横浜市こどもの国でタヌキため糞の調査開始
2. 未分析のタヌキため糞を収集済み
3. 採集糞の食性分析と虫卵検査を予定

